下野新聞

足工大付 反撃及ばず

栃木 54年ぶり4強

栃木―足工大付準々決勝 54年ぶりの4強進出を果たし、笑顔で応援席に駆け出す栃木ナイン＝県営球場、杉浦崇仁撮影

チーム一丸 窮地しのぐ

54年ぶりに春のベスト4進出を決めた栃木。最後の打者を外野フライに打ち取ると、津村洋宙と岩村禎一のバッテリーは、弾ける笑顔でガッツポーズを見せた。

初回に奪った3点が大きな"貯金"となった。1死二、三塁で打席に入った4番・黒田啓仁が「1、2回戦は主戦の津村に頼り切り。だからこそ打線で流れを作りたかった」と中前へはじき返し先制。続く小花智志は「1回戦で失策した。その悔しさを打って晴らす」と2点適時打、黒田の思いに続いた。

先発の前原隆史と2番手の津村をリードした岩村も、2投手を守りで援護した。八回は飛び出した相手の二走を刺殺。「練習の成果が出た。危機を救いたかった」。投手を支える思いがプレーに表れた。

谷昌範監督は「苦しい試合だったが、バッテリーを中心とした粘り強い守備で乗り越えられた」と勝利を導いた野手たちの奮闘をたたえた。

準決勝の相手は、昨夏の3回戦で土を付けられた国学栃木。谷監督は「この日の試合でもチームは成長した。チームはまだ進化の途中」と伸びしろの大きさを強調する。チーム一丸で半世紀前の歴史に並んだ栃木。歴史を変える「関東切符」の獲得に挑む。

（杉浦崇仁）

ハイライト

▽準々決勝（県営）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
足工大付	0	0	1	0	1	0	0	0	1	3
栃木	3	0	0	0	0	0	0	1	×	4

▽三塁打 佐取（足）▽二塁打 高草木（足）

【評】序盤で先制し試合を優位に進めた栃木が、追いすがる足工大付を振り切った。

栃木は、4番・黒田と小花の2連打で3点を先制。二回以降は2安打にとどまったが、八回に敵失からの走者を小花が中犠飛で返し、貴重な追加点を奪った。

足工大付は九回に1点差まで詰め寄ったが、反撃もそこまで。得点機にあと一本が出ず10残塁を喫した。

【足工大付】		打	安	点
⑨	佐取	4	1	0
④	御田優	5	4	2
③	吉野	4	2	2
②	高草木	5	3	1
⑤	依田	3	1	0
①	島熊	1	0	0
H1	大井出	1	0	0
H	柳谷	1	0	0
1	御田駿	0	0	0
⑥	若林	4	1	0
⑦	武藤	3	0	0
H	秋沢	1	0	0
⑧	藤掛	3	1	0
振球犠併残		打	安	点
4 2 3 0 1 0 3 5 1 2 3				

【栃木】		打	安	点
⑨	鈴木	4	1	0
④	五井野	3	1	0
③	浅川	2	0	0
H3	太田神	1	0	0
H	長谷川智	1	0	0
3	黒田	2	1	0
⑦	石原	1	0	0
H7	石郷岡	0	1	0
R	小花	2	1	3
⑧	関口	4	0	0
⑤	田崎	3	1	0
⑥	岩村	3	0	0
②	前原	1	0	0
①	津村	1	0	0
振球犠併残		打	安	点
2 2 3 0 5 2 8 6 4				

		回	打	安	失
投	島田	3	13	4	3
手	井出	2	8	1	0
回	御田駿	3	12	1	1
打	前原	4	17	3	1
安	津村	5	23	9	2
失					

▽審判（球）大山（塁）中井、篠原、秋元英▽試合時間 1時間49分